

令和3年10月25日

西部農林水産振興センター県央事務所邑智農業部

標 題      みんなで学ぼう！！牛の受精卵移植～矢上高校「石見和牛プロジェクト」第3弾～

(ダイジェスト)

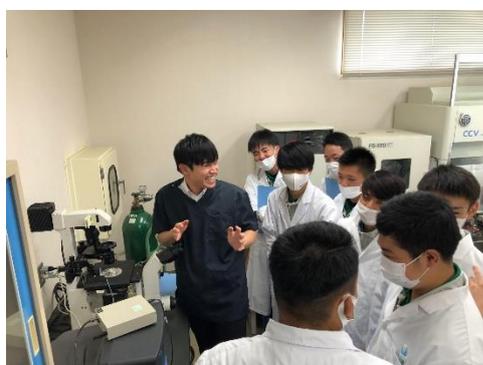
地域を担う畜産人の育成としておよび地域農業の活性化を目的として、平成31年3月に県立矢上高校、JAしまね島根おおち地区本部、邑南町、及び島根県西部農林水産振興センター（川本家畜衛生部、県央事務所邑智農業部）により、「石見和牛プロジェクト」が設立されました。4者が連携し、和牛に関する知識の習得や、第12回全国和牛能力共進会に向けた取り組みを推進していくこととしています。

10月21日、「石見和牛プロジェクト」第3回研修会として、同校産業技術科3年生8名を対象に受精卵移植技術研修会を開催しました。受精卵移植とは優秀な雌牛から過剰排卵処理と人工授精によって受精卵を採取し、受卵牛（ドナー）にその受精卵を移植して子牛を生産する技術をいいます。

当日は同校で飼養されている「こはる号」に県種雄牛の「福勇紀号」の精液を人工授精した受精卵を採取しました。県畜産技術センターの獣医師から採卵方法や検卵についての説明を受け、顕微鏡で採取した受精卵を確認しました。

研修の後半では、県央地域から3名の受精卵移植師を招き、管内の酪農家が飼養しているホルスタイン種への移植をおこないました。生徒からは積極的に質問があり、研修はとても明るい雰囲気で行われました。12月には管内の畜産農家や関係機関に向けて石見和牛プロジェクトの途中経過を発表する予定としており、来年に開催される第12回全国和牛能力共進会特別区への出場も期待されます。

本プロジェクトでは、生徒が畜産の専門的な知識を習得すること及び、技術の継承を図ることを目的としています。邑智農業部では、今後も引き続き関係機関と連携し、情報提供や技術指導を通じて、本プロジェクトの運営を支援していくこととしています。



採卵した受精卵についての説明を聞く生徒



受精卵移植を見学する生徒